

# ANAホールディングス株式会社 説明会

## 2017年3月期 第2四半期 決算

代表取締役社長  
片野坂 真哉

取締役 執行役員  
平子 裕志

2016年10月31日



©ANAHD2016

1

◎本日はお忙しい中、2017年3月期 第2四半期 決算説明会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。

◎今年度に入ってから、

- ・羽田空港における手荷物搬送システムの不具合、
- ・ボーイング787型機のエンジン部品に関する不具合、
- ・空港の保安検査場や搭乗口における業務手順の不徹底など、

航空事業において発生したいくつかの事象に関して、皆さまにご心配をおかけしています。

◎これらの状況を踏まえ、今一度、「安全」を経営の基盤として事業を推進するよう、各事業会社に指示しました。

私自身の責任において、グループ全体で「安全」を徹底的に追求していきます。

皆様には変わらぬご支援を頂きますよう、お願い申し上げます。

◎それでは、本日の本題です。私からは、

1. 2016年度 第2四半期決算
2. 2016年度 業績予想と航空事業における下期の対応
3. 中期経営戦略の進捗

の3点について、ご説明します。

◎スライドの4ページをご覧ください。

## 目次

## 【第1部】

## I. 2016年度 第2四半期決算(概要)

2016年度 第2四半期決算	P. 4
2016年度 通期業績予想	P. 5
航空事業の状況	P. 6
経営戦略の進捗	P. 7-8

## 【第2部】

## II. 2016年度 第2四半期決算(詳細)

業績ハイライト	P. 10
連結決算概要	
経営成績	P. 11
財政状態	P. 12
キャッシュフロー	P. 13
セグメント別実績	P. 14
航空事業	
収入・費用	P. 15
営業利益増減要因	P. 16
国内旅客事業	P. 17-18
国際旅客事業	P. 19-22
国内貨物事業	P. 23
国際貨物事業	P. 24-26
LCC事業	P. 27
航空事業以外のセグメント	P. 28

## III. 2016年度 業績予想(詳細)

2016年度 通期業績予想	
連結業績予想	P. 30
セグメント別 業績予想	P. 31
航空事業 収入・費用予想	P. 32
計画前提(旅客事業)	P. 33
計画前提(貨物事業)	P. 34
燃油・為替ヘッジの進捗状況	P. 35
運用航空機数	P. 36
国際旅客 方面別実績(構成比)	P. 37
国際貨物 方面別実績(構成比)	P. 38

今年度より、貨物事業における代理店向け「国際貨物販売手数料」を廃止したことから、収入と費用をネットしています。

ディスクロージャー  
2016年度 優良企業



SAAI 日本証券アナリスト協会

**【第1部】**

**I. 2016年度 第2四半期決算(概要)**



## 2016年度 第2四半期決算

上期で過去最高益を達成、営業利益率は10パーセントを超過

## 2016年度 第2四半期累計 連結決算

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	8,849	▲262	▲2.9%
航空事業	7,691	▲189	▲2.4%
営業利益	895	+27	+3.2%
航空事業	847	+36	+4.4%
営業利益率	10.1%	+0.6%	—
経常利益	834	+4	+0.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	574	+34	+6.4%
EBITDA	1,579	+40	+2.6%

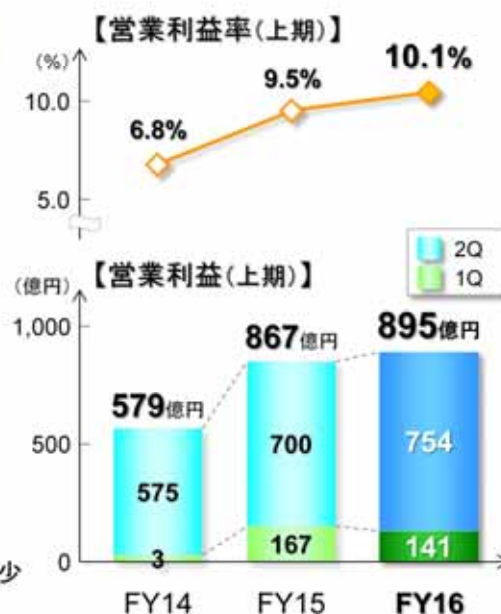
▶ 国際旅客事業が堅調に推移

- 燃油サーチャージ収入の減少・円高により、売上高は前年から減少

▶ 燃油費を中心に費用が減少(原油市況の下落・円高)

- 燃油・為替ヘッジを通して利益計画を着実にコントロール

## 第2四半期 累計(連結)の推移



©ANAHD2016

4

◎こちらは、2016年度 第2四半期決算の概要です。

◎主力の航空事業において、国際線ネットワークの拡充を進めていますが、第2四半期も旅客需要は堅調に推移しました。

但し、国際旅客事業における燃油サーチャージ収入や、円高に伴う外貨収入の円建て換算額が減少したこと等により、連結の売上高は前年比で減少しました。

◎一方、費用面については、原油市況の下落や円高による影響に加え、事業拡大を進める中で、引き続き費用の増加抑制やコストマネジメントに取り組みました。その結果、営業利益は、前年比で27億円増加の895億円となり、減収ながらも増益決算となりました。

◎右のグラフは、過去3年にわたる上期の営業利益、並びに営業利益率の推移です。第2四半期累計の営業利益で過去最高益を更新し、営業利益率も、10パーセントを超過しました。

◎決算の詳細については第2部でご説明します。

◎5ページをご覧ください。

## 2016年度 通期業績予想

経営環境の変化に伴い前提条件を修正、利益・配当については当初計画から変更なし

## 2016年度 通期 連結業績予想の修正

(億円)	通期	当初差 (*16.4.28開示)
売上高	17,400	▲700
営業費用	15,950	▲700
営業利益	1,450	—
営業利益率	8.3%	+0.3%
経常利益	1,300	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	800	—
1株あたり配当	6円	—

## 【主な修正ポイント】

- ① 路線計画の見直し
- ② 需要見通しの精査
- ③ 為替市況の前提変更  
(¥115/\$→¥100/\$)

利益計画・配当計画  
⇒ 変更なし

©ANAHD2016

5

◎今年度の通期業績予想の修正内容について、ご説明します。

◎マクロ環境や為替市況の変化を踏まえ、今期業績の前提条件を見直しました。

主な修正ポイントは、右にお示した通り、

- ・下期の航空事業について、一部の路線計画を見直したこと、
  - ・直近の市場動向を勘案の上、需要見通しを精査したこと、
  - ・為替の円高進行に伴い、下期の市況前提を変更したこと、
- の3点です。

◎これらの修正を反映しても、利益計画は変更ありません。配当も、1株当たり6円を予定し、年度当初の計画から変更ありません。

◎続いて、航空事業における路線計画の見直しについて、ご説明します。

◎6ページをご覧ください。

## 航空事業の状況

## 利益計画の達成に向けてネットワークとフリート計画を柔軟に変更

	上期の状況	下期の対応
国際旅客	<p><b>B787の積極投入、ネットワーク拡充による競合他社との差別化推進</b></p> <p>1) 成田－武漢 就航(4月) 2) 成田－フノンベン 就航(9月)</p> <p>日本発: 堅調な業務渡航需要、欧州テロによる低調なレジャー需要 海外発: 着実に増加する訪日・三国間需要</p>	<p><b>B787の積極投入、ネットワーク拡充による競合他社との差別化推進</b></p> <p>1) 羽田－ニューヨーク/シカゴ/クアラルンプール 就航(10月) 2) 成田－ホーチミン 増便(10月) 3) 成田－メキシコシティ 就航予定(2月)</p>
国内旅客	<p><b>需給適合の推進による安定した収益基盤の確立</b></p> <p>1) 小型機材の活用(B737-800) 熊本地震による影響は収束へ</p>	<p><b>需給適合の推進による安定した収益基盤の確立</b></p> <p>1) B787エンジン部品交換に応じた稼働機材の一部見直し</p>
国際貨物	<p>1) 旅客機による生産量拡大</p> <p>市場全体の供給拡大に対し、緩やかな需要の回復ペース</p>	<p><b>フレイター稼働の抑制による採算性改善</b></p> <p>1) ネットワーク改廃による事業規模の修正</p>
LCC (バニラエア)	<p><b>台北の拠点化を視野にLCC市場でのプレゼンス向上を追求</b></p> <p>一部の国際線におけるLCC間の競争激化</p>	<p><b>台北の拠点化を視野にLCC市場でのプレゼンス向上を追求</b></p> <p>1) 就航路線の更なる拡大</p>

©ANAHD2016

6

◎こちらのスライドは、航空事業における上期の状況と、下期の変更点並びに取り組むテーマについてです。

◎まず、国際旅客事業において、昨日10月30日より、昼間時間帯の発着枠を活用して、羽田－ニューヨーク線、並びにシカゴ線が就航しました。羽田の利便性を活かし、高単価需要の取り込みを一層強化します。

◎国内旅客事業においては、ボーイング787型機のエンジン部品の交換を、遅滞なく実施しています。稼働機材を一部見直すことにより、今後の欠航便は発生しない予定です。引き続き、需給適合を推進する中で、大型機を追加的に稼働させるため、運航費用が若干増加しますが、安全を最優先に対応していきます。

◎国際貨物事業について、上期の実績を受けて、下期以降の貨物便を減便します。需要の少ない路線を中心に、フレイターの稼働を抑制することで、収支の改善に取り組みます。

◎7ページをご覧ください。

## 経営戦略の進捗①

今後の成長事業領域に先行着手、機動的な資金調達を実施

## 事業

航空事業	フルサービスキャリア ANA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ANA国際線ネットワークの拡大</li> <li>・ベトナム航空とのコードシェア開始(10月)</li> </ul>
	LCC Vanilla Air	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以遠権行使を含めた新規路線の積極展開</li> </ul>
ノンエア事業	航空関連事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ANAブランド活用の新マーケティング会社設立(10月)</li> <li>・グループ間の連携による越境Eコマースの推進</li> </ul>
	商社事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空港型免税店の運営会社設立(6月)</li> </ul>

## 財務

信用格付の向上(2016年3月) ⇒ 有利な条件による社債の発行

- 機関投資家向け社債(6月): 発行額 200億円(年限 20年)
- 個人投資家向け社債(9月): 発行額 200億円(年限 4年)

©ANAHD2016

7

◎こちらは、今年1月29日に発表した中期経営戦略の進捗についてです。

◎まず、航空事業についてですが、

LCCのバニラエアは、引き続き、新規路線を展開する計画です。  
台北を拠点とした以遠権の行使を含めて、アジアに路線を拡充し、  
バニラエアの利用者拡大を図ります。

◎ノンエア事業としては、将来に向けて、成長事業領域を確保していく考えです。

今般、当社グループのマーケティング力を強化するための新会社として、  
「ANA X」(エーエヌエー・エックス)株式会社を設立しました。  
これまで培ってきたANAの顧客基盤や、ブランド力などの現有資産を活用し、  
ANAマイレージクラブ会員等を対象とした、ANA経済圏モデルを確立することによって、  
外部収入の拡大を目指します。

◎Eコマース事業については、貨物事業を含めたグループ会社間の連携により、  
積極的な展開で潜在需要を掘り起こし、ビジネスチャンスを着実に捉えていきます。

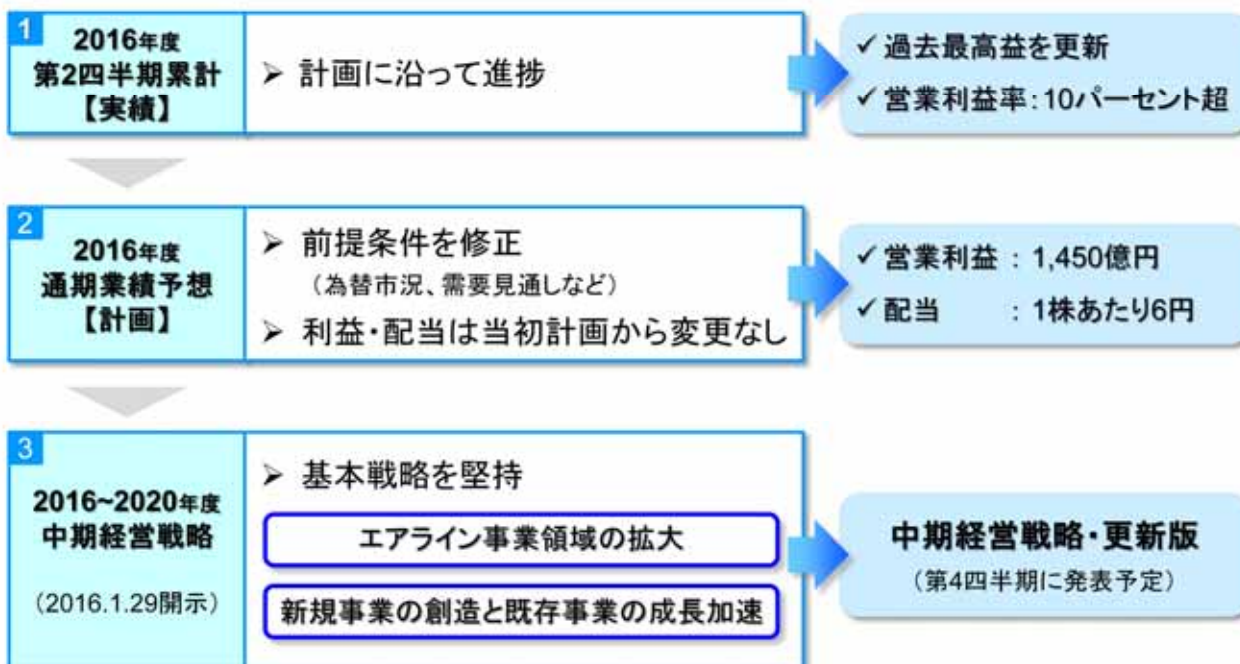
◎商社事業では、6月に空港型免税店の運営会社を設立しました。2017年春から、  
営業を開始する予定です。足元の訪日需要は、依然として好調ですが、  
爆買いの鎮静化など、消費動向は大きく変化しています。  
化粧品含む一般消耗品をはじめとする品揃えを工夫するなど、準備を着実に進めていきます。

◎財務面では、今年3月に信用格付が向上したことを受け、  
機関投資家向け、並びに個人投資家向けの社債を、  
それぞれ、かつてない有利な条件で発行しました。  
引き続き、財務の健全性を下支えに、資金調達の柔軟性を活用していきます。

◎8ページをご覧ください。

## 経営戦略の進捗②

今期業績は計画並みに推移、環境変化を考慮した上で中期経営戦略を更新



©ANAHD2016

8

◎最後に、本日のまとめです。

◎現行の中期経営戦略の初年度である2016年度は、折り返し地点を過ぎましたが、第2四半期累計で過去最高益を更新し、順調に進捗しています。

◎通期業績見通しについては、前提条件を修正しましたが、利益、並びに配当は当初計画から変更ありません。

◎来期以降ですが、今年度の第4四半期に、中期経営戦略の更新版を発表する予定です。基本戦略については、現行方針から変更はありませんが、経営を取り巻く環境の変化等を踏まえ、一部で修正対応を図った上で、2020年度の経営目標達成に向けて、先ずは足元の事業を着実に固めていきます。

◎以上で、私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

**【第2部】****Ⅱ. 2016年度 第2四半期決算(詳細)**

©ANAHD2016

9

◎私から、2016年度 第2四半期決算と、通期業績予想の詳細を、順にご説明します。  
10ページをご覧ください。

## 業績ハイライト

## 当年度と前年度各四半期の業績比較

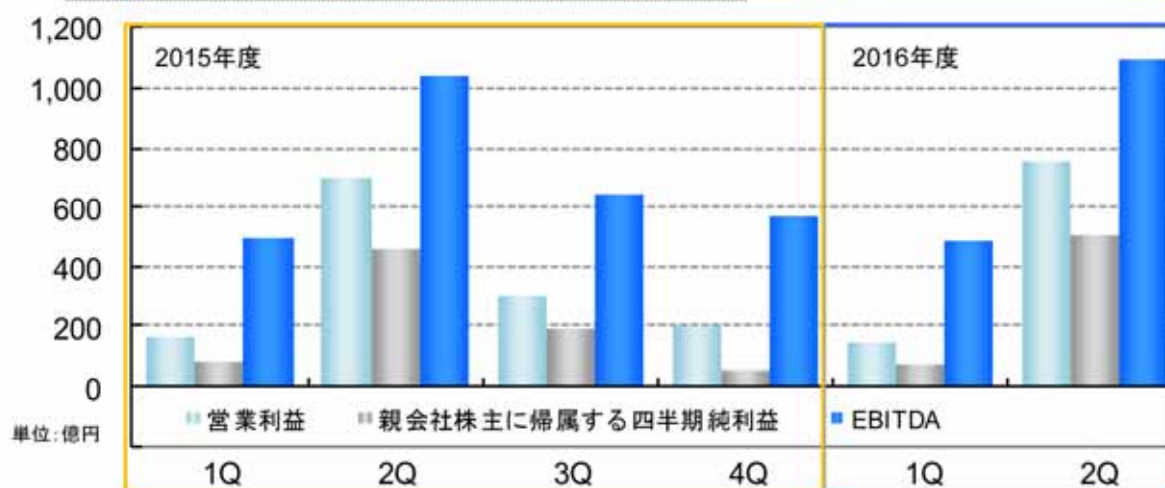
## 前年同期から増益を達成

## 【第2四半期 累計(連結)】

- 営業利益 : 895億円 (前年同期比 + 27億円)
- 親会社株主に帰属する  
四半期純利益 : 574億円 ( 同 + 34億円)
- EBITDA : 1,579億円 ( 同 + 40億円)

## 【第2四半期(7-9月期)(連結)】

- 営業利益 : 754億円
- 親会社株主に帰属する  
四半期純利益 : 507億円
- EBITDA : 1,097億円



©ANAHD2016

10

◎本ページでは、四半期毎の業績推移をお示ししています。

◎第2四半期 3ヶ月間の業績は、営業利益が754億円、純利益が507億円、EBITDAが1,097億円となり、それぞれ過去最高を更新しました。

◎11ページをご覧ください。

## 連結決算概要

経営成績	単位: 億円	FY2015	FY2016	前年差	FY2016	前年差
		第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
売上高		9,112	8,849	△262	4,805	△167
営業費用		8,244	7,954	△290	4,051	△221
営業利益		867	895	+27	754	+53
営業利益率(%)		9.5	10.1	+0.6	15.7	+1.6
営業外損益		△38	△61	△22	△26	+3
経常利益		829	834	+4	728	+57
特別損益		0	1	+0	0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益		539	574	+34	507	+51
当期純利益		541	576	+34	509	+51
その他包括利益		△224	△125	+98	42	+475
包括利益		317	451	+133	552	+526

©ANAHD2016

11

◎経営成績の概要です。

◎第2四半期累計の売上高は、前年同期から262億円減少し、8,849億円となりました。  
営業費用は、290億円減少し、7,954億円となりました。

◎その結果、営業利益は前年から27億円増加の895億円、  
経常利益も前年を上回る834億円となり、共に、上期として過去最高となりました。  
親会社株主に帰属する四半期純利益についても、34億円増加の574億円となり、  
それぞれ前年を上回る、増益決算となりました。

◎12ページをご覧ください。

## 連結決算概要

財政状態	単位: 億円	FY2015	FY2016	前年度
		期末	第2四半期末	期末差
総資産		22,288	22,528	+240
自己資本		7,898	8,183	+284
自己資本比率(%)		35.4	36.3	+0.9
有利子負債残高		7,038	7,385	+346
D/Eレシオ(倍)*		0.9	0.9	+0.0
純有利子負債残高**		4,262	4,521	+259

\* オフバランスリース債務額 563億円(前年度期末 690億円)を含むD/Eレシオは1.0倍(前年度期末1.0倍)

\*\* 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - (流動資産(現金及び預金 + 有価証券))

◎財政状態です。

◎総資産は2兆2,528億円となりました。

◎自己資本は、前年度期末から284億円増加の8,183億円となり、  
自己資本比率は、0.9ポイント上昇して、36.3パーセントとなりました。

◎有利子負債は、新規借入や社債の発行を行った結果、  
346億円増加の7,385億円となり、デット・エクイティ・レシオは、0.9倍となりました。

◎13ページをご覧ください。

## 連結決算概要

## キャッシュフロー

単位:億円

	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	1,711	1,137	△573
投資キャッシュフロー	△ 1,230	△1,153	+76
財務キャッシュフロー	△ 564	145	+709
現金及び現金同等物の増減額	△ 80	84	+165
現金及び現金同等物の期首残高	2,089	2,651	} +84
現金及び現金同等物の期末残高	2,008	2,735	
減価償却費	671	683	+12
設備投資額(固定資産のみ)	1,272	1,150	+121
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く)	1,068	△11	△1,080
EBITDA(営業利益+減価償却費)	1,538	1,579	+40
EBITDAマージン(%)	16.9	17.8	+1.0

©ANAHD2016

13

◎キャッシュフローです。

◎営業キャッシュフローは、1,137億円の収入、  
投資キャッシュフローは、1,153億円の支出、  
財務キャッシュフローは、145億円の収入となりました。

◎3ヶ月超の定期・譲渡性預金の資金移動を除いた実質フリーキャッシュフローは、  
前年同期から1,080億円減少して11億円の支出となりました。  
航空機のセールス・アンド・リースバックに伴う、資産売却収入の差異が、  
主たる減少の要因です。

◎14ページをご覧ください。

## 連結決算概要

## セグメント別実績

単位:億円

		FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差	FY2016 第2四半期	前年差
売上高	航空事業	7,880	7,691	△189	4,182	△126
	航空関連事業	1,144	1,277	+132	664	+97
	旅行事業	884	824	△60	483	△38
	商社事業	715	689	△26	345	△18
	報告セグメント計	10,626	10,482	△143	5,675	△85
	その他	161	166	+5	83	+1
	調整額	△1,675	△1,799	△123	△952	△83
	合計(連結)	9,112	8,849	△262	4,805	△167
営業利益	航空事業	811	847	+36	721	+62
	航空関連事業	42	53	+10	28	+5
	旅行事業	28	20	△8	13	△8
	商社事業	30	26	△4	15	△0
	報告セグメント計	913	947	+34	780	+58
	その他	6	7	+0	3	+0
	調整額	△52	△59	△7	△28	△4
	合計(連結)	867	895	+27	754	+53

©ANAHD2016

14

◎セグメント別の実績です。

◎航空事業に加えて、航空関連事業も増益となりました。

羽田空港や関西空港における受託業務の拡大が貢献しました。

◎一方、旅行事業と商社事業は減益となりました。

旅行事業においては、国内旅行需要が熊本地震によって減少した他、海外旅行需要についても、欧州で発生したテロの影響が続きました。

商社事業では、空港免税店の販売額が前年を下回ったことが、影響しました。

◎次に、航空事業の詳細についてご説明します。16ページをご覧ください。

## 航空事業

## 収入・費用

単位:億円

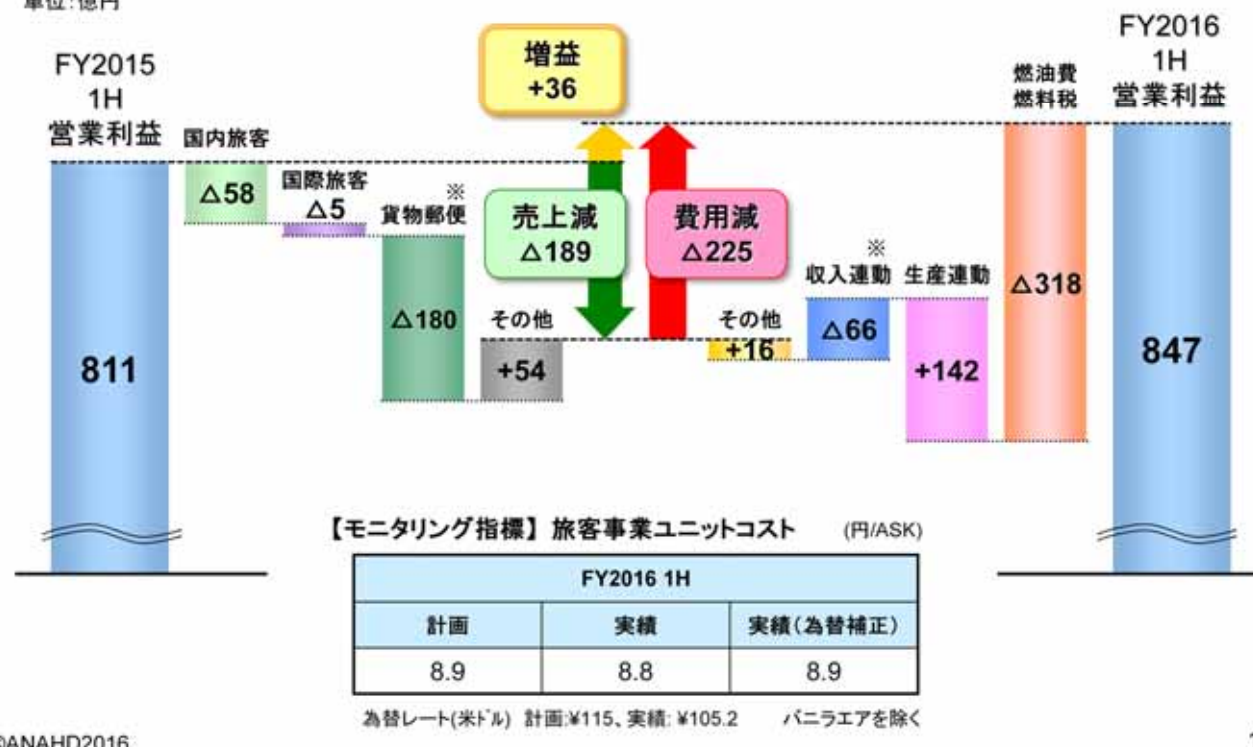
	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差	FY2016 第2四半期	前年差	
売上高	国内線旅客	3,532	3,474	△58	1,969	△39
	国際線旅客	2,596	2,591	△5	1,358	△45
	貨物郵便	789	608	△180	311	△90
	その他	961	1,016	+54	544	+49
	合計	7,880	7,691	△189	4,182	△126
営業費用	燃油費・燃料税	1,680	1,362	△318	693	△187
	空港使用料	585	571	△13	293	△10
	航空機材賃借費	462	495	+33	245	+10
	減価償却費	638	650	+12	326	△0
	整備部品・外注費	501	514	+12	268	+0
	人件費	871	916	+45	465	+13
	販売費	528	450	△77	220	△41
	外部委託費	916	987	+70	500	+27
	その他	883	893	+9	447	+0
	合計	7,068	6,843	△225	3,461	△188
営業利益	811	847	+36	721	+62	
EBITDA(営業利益+減価償却費)	1,450	1,498	+48	1,048	+61	
EBITDAマージン(%)	18.4	19.5	+1.1	25.1	+2.2	

## 航空事業

## 営業利益増減要因

※今期から代理店向け「国際貨物販売手数料」を廃止したことにより、収入と費用をネットしています。

単位：億円



◎航空事業における営業利益の、前年同期比較です。

◎売上高は、189億円の減少となりました。

円高による海外販売収入の減少と、

原油市況の下落による燃油サーチャージ収入の減少が大きく影響しました。

◎「その他」に含まれるバニラエアの収入は、前年とほぼ同水準となりました。

◎今年度から、代理店向けの「国際貨物販売手数料」を廃止したことにより、

収入と費用をネットすることで、前年同期に計上していた約85億円が減収となりました。

◎営業費用は、225億円の減少となりました。

事業規模の拡大に伴い生産連動費用は増加しましたが、燃油費は大きく減少しました。

◎以上の結果、営業利益は36億円増加して、847億円となりました。

◎今年度より、ユニットコストの推移を確認しながら、

コストマネジメントを徹底することとしています。

下段の表にお示ししている通り、上期のユニットコストは計画に沿った実績となりました。

◎18ページをご覧ください。

## 航空事業

国内旅客事業(実績)	FY2015	FY2016	前年比(%)	FY2016	前年比(%)
	第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
座席キロ(百万)	30,307	30,225	△0.3	15,831	△0.1
旅客キロ(百万)	19,433	19,526	+0.5	10,734	+1.4
旅客数(千人)	21,551	21,520	△0.1	11,730	+0.8
座席利用率(%)	64.1	64.6	+0.5*	67.8	+1.0*
旅客収入(億円)	3,532	3,474	△1.7	1,969	△2.0
ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ)	11.7	11.5	△1.4	12.4	△1.9
イールド(円) (旅客収入/旅客キロ)	18.2	17.8	△2.1	18.3	△3.4
単価(円) (旅客収入/旅客数)	16,393	16,146	△1.5	16,787	△2.7

\* 座席利用率のみ前年差

(バニラエア含まず)

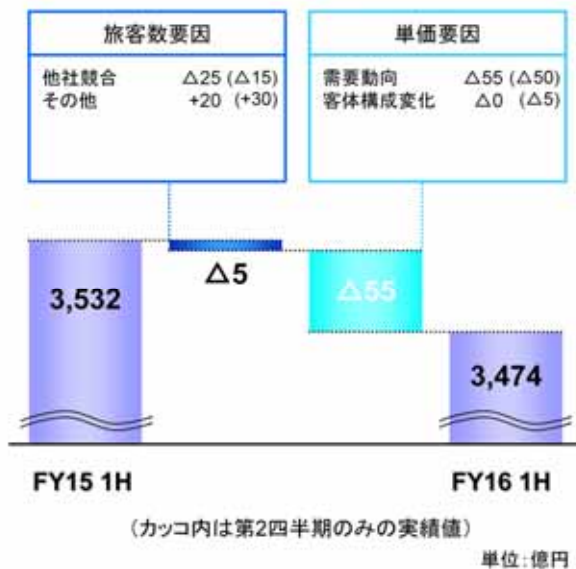
## 航空事業

## 国内旅客事業(事業動向)

(パニラエア含まず)

## 第2四半期累計 収入増減要因

✓ プロモーション運賃を積極的に展開、単価は前年割れ



## 四半期別 座席キロ・収入・座席利用率推移



©ANAHD2016

18

◎国内旅客の状況です。

◎左の図は、上期の減収額、58億円の要因分析です。

◎熊本地震によって減退したレジャー需要の回復後押しや、  
低需要便への需要喚起を目的として、プロモーション運賃を積極的に展開した結果、  
単価要因では55億円の減収となりました。

◎旅客数要因でも、他社との競合等により、増収には至らず、  
5億円の減収となりました。

◎20ページをご覧ください。

## 航空事業

国際旅客事業(実績)	航空事業				
	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年比(%)	FY2016 第2四半期	前年比(%)
座席キロ(百万)	26,333	29,458	+11.9	14,845	+8.1
旅客キロ(百万)	19,984	22,309	+11.6	11,646	+7.9
旅客数(千人)	4,062	4,479	+10.3	2,348	+9.1
座席利用率(%)	75.9	75.7	△0.2*	78.4	△0.1*
旅客収入(億円)	2,596	2,591	△0.2	1,358	△3.2
ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ)	9.9	8.8	△10.8	9.1	△10.5
イールド(円) (旅客収入/旅客キロ)	13.0	11.6	△10.6	11.7	△10.3
単価(円) (旅客収入/旅客数)	63,920	57,854	△9.5	57,841	△11.3

\* 座席利用率のみ前年差

(バニラエア含まず)

## 航空事業

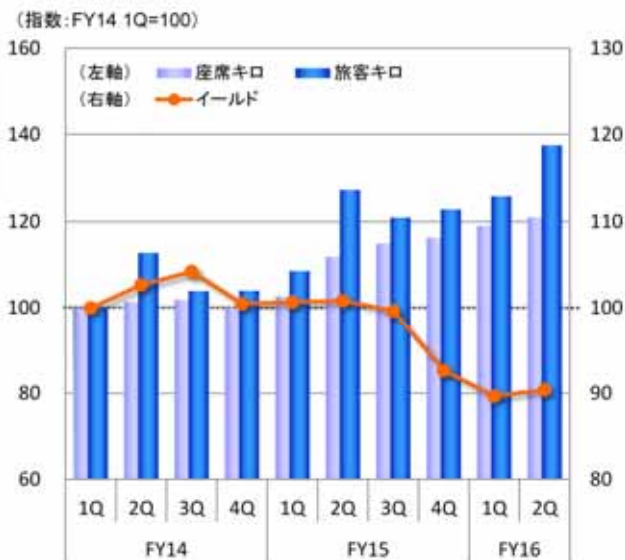
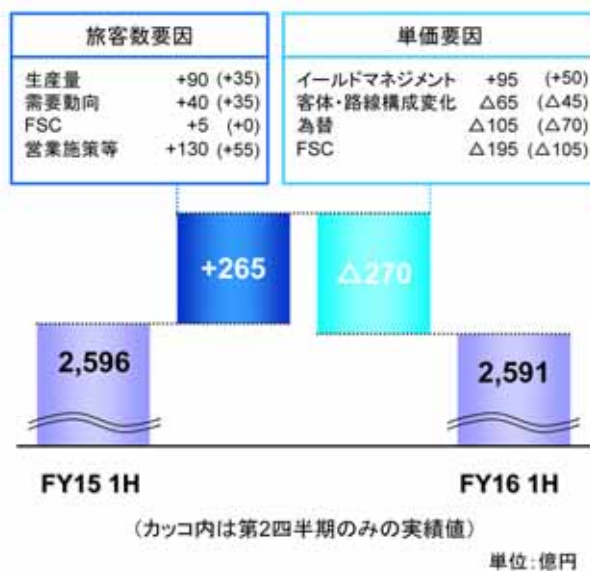
## 国際旅客事業(事業動向)

(パニラエア含まず)

## 第2四半期累計 収入増減要因

## 四半期別 座席キロ・旅客キロ・イールド推移

✓市況要因で単価が下落する中、前年並みの収入を確保



©ANAHD2016

20

◎国際旅客の状況です。左の図をご覧ください。

◎旅客数要因では、国内外の需要を幅広く取り込んだことで、  
265億円の増収となりました。

◎単価要因では、イールドマネジメントを徹底した効果も表れましたが、  
円高の影響や、燃油サーチャージ収入の減少により、270億円の減収となりました。

◎需要の取り込み状況について、詳細をご説明します。21ページをご覧ください。

## 航空事業

## 国際旅客事業(事業動向)

(パニラエア含まず)

## ビジネスクラス 輸送実績・構成比推移

## 四半期別 方面別 輸送実績推移

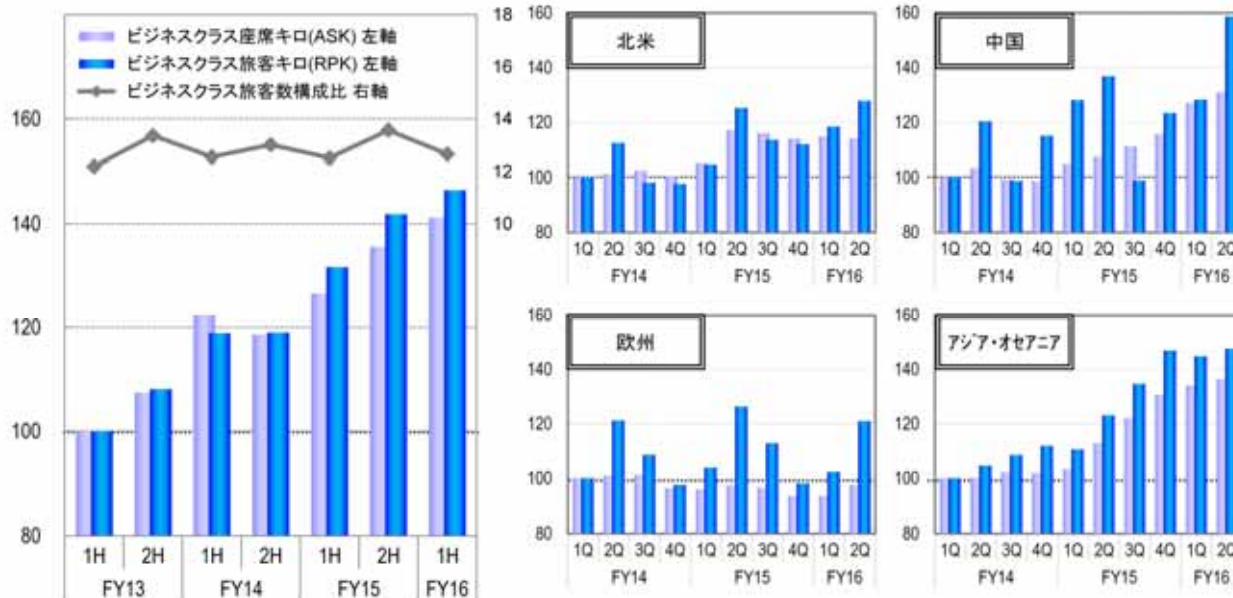
(指数 FY13 1H=100)

構成比(%)

(指数 FY14 1Q=100)

■: 座席キロ

■: 旅客キロ



©ANAHD2016

21

◎左の図では、当社国際線ビジネスクラスの供給量、及び、需要の推移と、全体に占めるビジネスクラス旅客数の構成比の変化をお示ししています。

◎生産量を徐々に拡大するなかで、着実に高単価需要の取り込みを実現してきました。

◎今年度のビジネスクラス旅客数は、第1四半期、第2四半期ともに、前年比で11パーセント強の増加となり、上期を通じて、堅調な実績となりました。

◎右の図では、方面別の状況を示しています。

第2四半期における各方面の旅客キロは、テロの影響が残る欧州方面を除いて、前年を上回る実績となりました。

日本発の業務渡航需要は、足元でも全方面で底堅く推移しています。

◎22ページをご覧ください。

## 航空事業

## 国際旅客事業(事業動向)

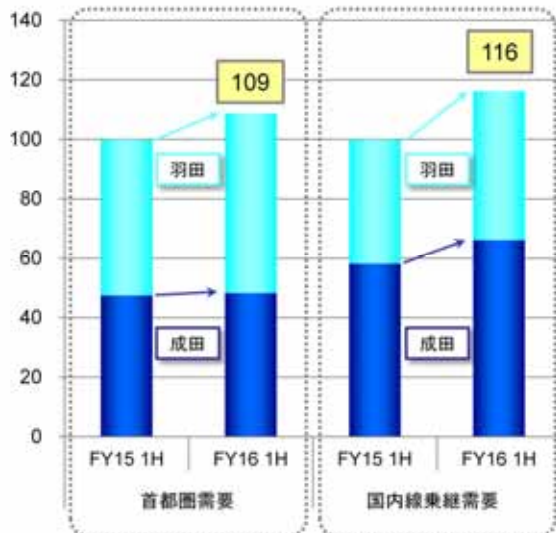
(パニラエア含まず)

## デュアルハブネットワーク戦略の進捗(流動別旅客数の前年同期比較)

## 国内販売

✓国内発需要を幅広く取り込む  
羽田が高い競争力を示す

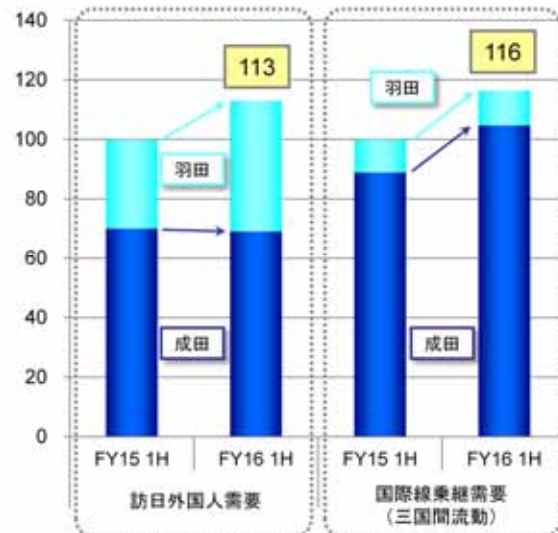
旅客数 指数  
(FY15 1H=100)



## 海外販売

✓海外発需要は両空港で拡大  
訪日需要は羽田、三国間需要は成田

旅客数 指数  
(FY15 1H=100)



©ANAHD2016

22

◎本スライドでは、国際旅客事業の主な需要について、販売地別、空港別にご説明します。

◎各グラフは、2016年度上期の実績を前年同期と比較したものです。

水色は羽田発着の旅客数を、紺色は成田発着を表し、

前年同期における両空港の合計旅客数を100として、当年度の実績をお示しています。

◎左の図の通り、国内販売では、羽田が高い競争力を発揮しました。

業務渡航者を主たるターゲットとして、首都圏需要を着実に獲得していることに加え、

当社の充実した国内線ネットワークを活かして、

日本各地からの乗継旅客についても取り込みを拡大しました。

◎また、海外販売では、羽田において訪日旅客数を伸ばした一方、

柔軟なダイヤ設定が可能な成田において、

国際線乗継旅客の更なる獲得を実現しました。

◎羽田と成田、それぞれの強みを活かしたデュアルハブネットワーク戦略が、

確実に実績へと結びついています。

◎次に、26ページをご覧ください。

## 航空事業

国内貨物事業(実績)	FY2015	FY2016	前年比(%)	FY2016	前年比(%)
	第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
有効貨物トンキロ(百万)	953	921	△3.4	497	△3.0
有償貨物トンキロ(百万)	230	225	△2.0	120	△3.3
貨物輸送重量(千トン)	228	222	△2.7	119	△4.0
貨物重量利用率(%)	24.1	24.5	+0.3*1	24.1	△0.1*1
貨物収入(億円)*2	155	150	△3.0 (△1.7)	79	△4.3 (△3.0)
ユニットレベニュー(円)*2 (貨物収入/有効貨物トンキロ)	16.3	16.4	+0.4 (+1.7)	15.9	△1.4 (△0.1)
イールド(円)*2 (貨物収入/有償貨物トンキロ)	67.5	66.9	△1.0 (+0.3)	66.1	△1.0 (+0.3)
重量単価(円/kg)*2 (貨物収入/貨物輸送重量)	68	68	△0.3 (+1.0)	67	△0.4 (+0.9)

\*1 貨物重量利用率のみ前年差

\*2 ()内は、「国際貨物販売手数料」の廃止による影響を除いた場合

## 航空事業

国際貨物事業(実績)	FY2015	FY2016	前年比(%)	FY2016	前年比(%)
	第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
有効貨物トンキロ(百万)	2,957	3,267	+10.5	1,654	+7.6
有償貨物トンキロ(百万)	1,702	1,999	+17.5	1,018	+16.6
貨物輸送重量(千トン)	396	457	+15.4	235	+15.3
貨物重量利用率(%)	57.5	61.2	+3.6*1	61.6	+4.7*1
貨物収入(億円)*2	583	418	△28.3 (△16.2)	213	△27.5 (△15.0)
ユニットレベニュー(円)*2 (貨物収入/有効貨物トンキロ)	19.7	12.8	△35.1 (△24.1)	12.9	△32.7 (△21.1)
イールド(円)*2 (貨物収入/有償貨物トンキロ)	34.3	20.9	△39.0 (△28.6)	21.0	△37.8 (△27.1)
重量単価(円/kg)*2 (貨物収入/貨物輸送重量)	147	92	△37.9 (△27.4)	91	△37.1 (△26.3)

\*1 貨物重量利用率のみ前年差

\*2 ()内は、「国際貨物販売手数料」の廃止による影響を除いた場合

## 航空事業

## 【参考】国際フレイター(実績)

本表のデータは、P.24記載実績の内数

	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年比(%)	FY2016 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ(百万)	625	627	+0.4	321	+2.4
有償貨物トンキロ(百万)	347	364	+4.7	187	+6.0
貨物輸送重量(千トン)	176	188	+6.8	98	+8.6
貨物重量利用率(%)	55.6	58.0	+2.4*	58.3	+2.0*
貨物収入(億円)	215	133	△38.2	63	△42.3
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	34.4	21.2	△38.4	19.8	△43.6
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	61.9	36.5	△41.0	33.9	△45.5
重量単価(円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	122	71	△42.1	65	△46.8

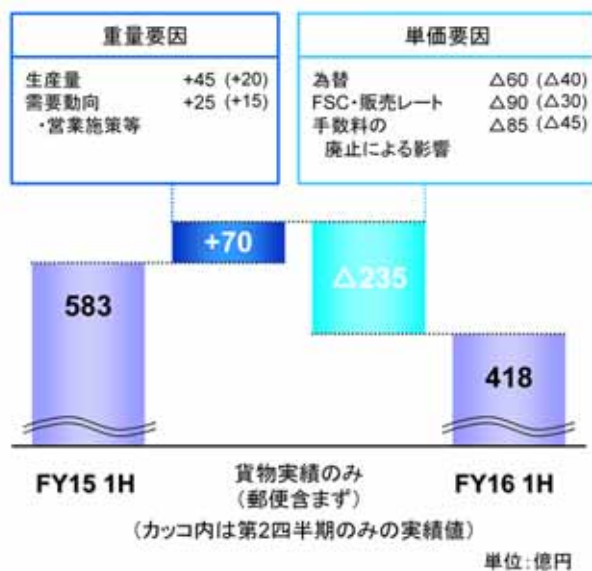
\*貨物重量利用率のみ前年差

## 航空事業

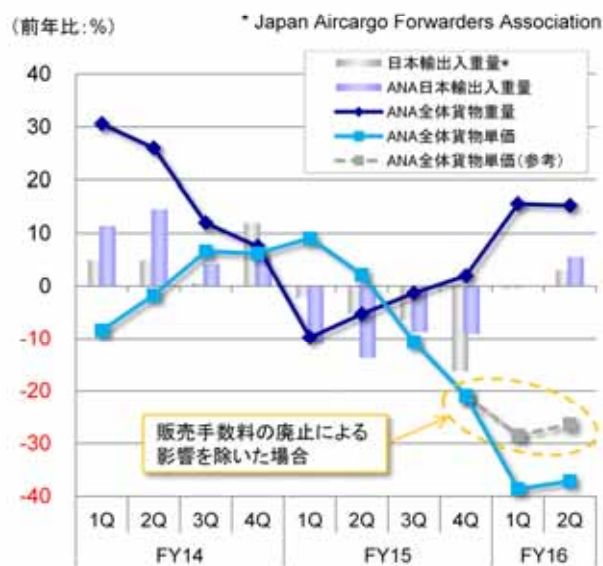
## 国際貨物事業(事業動向)

## 第2四半期累計 収入増減要因

✓為替・FSC影響によって単価が低下



## 四半期別 輸送実績・単価推移



©ANAHD2016

26

◎国際貨物の状況です。左の図をご覧ください。

◎重量要因では、三国間貨物のみならず、

第2四半期における輸出入貨物の取り込みが奏功したことから、

70億円の増収となりました。

◎単価要因では、厳しい競争による販売レートの低下に加え、円高の影響、

及び、販売手数料の廃止に伴い、235億円の減収となりました。

◎27ページをご覧ください。

## 航空事業

LCC事業(バニラエア)	FY2015	FY2016	前年比(%)	FY2016	前年比(%)
	第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
座席キロ(百万)	1,724	1,994	+15.6	1,082	+16.7
旅客キロ(百万)	1,495	1,726	+15.5	968	+17.1
旅客数(千人)	896	1,016	+13.3	569	+13.0
座席利用率(%)	86.7	86.6	△ 0.1*	89.5	+0.3*

国内線・国際線合計 \* 座席利用率のみ前年差

運用航空機数

エアバスA320-200型機：9機  
(2016年9月末 現在)

→ 成田ーセブ線 12/25 就航予定



©ANAHD2016

27

◎バニラエアの実績です。

◎上期の座席利用率は、**86.6**パーセントとなりました。

就航路線を徐々に拡大するなかでも、前年と同様、高い水準を維持しました。

◎LCC会社間の厳しい競争は続いています、

年末からは本邦LCCとして初めて、成田ーセブ線に就航するなど、アジア地域におけるバニラエアのプレゼンス向上を目指します。

◎30ページをご覧ください。

## 航空事業以外のセグメント

## セグメント別実績

単位:億円

	航空関連事業			旅行事業		
	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差
売上高	1,144	1,277	+132	884	824	△60
営業利益	42	53	+10	28	20	△8
減価償却費	26	25	△1	0	0	+0
EBITDA(営業利益+減価償却費)	69	78	+9	28	20	△7
EBITDAマージン(%)	6.1	6.2	+0.1	3.2	2.5	△0.7

	商社事業			その他		
	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差
売上高	715	689	△26	161	166	+5
営業利益	30	26	△4	6	7	+0
減価償却費	4	5	+0	0	0	△0
EBITDA(営業利益+減価償却費)	35	31	△3	7	8	+0
EBITDAマージン(%)	4.9	4.6	△0.3	4.7	4.9	+0.2

### Ⅲ. 2016年度 業績予想(詳細)



## 2016年度 通期業績予想

## 連結業績予想

単位: 億円	FY2015	FY2016 (修正予想)	前年差	FY2016 (当初予想)*
売上高	17,911	17,400	△ 511	18,100
営業費用	16,547	15,950	△ 597	16,650
営業利益	1,364	1,450	+ 85	1,450
営業利益率(%)	7.6	8.3	+ 0.7	8.0
経常利益	1,307	1,300	△ 7	1,300
親会社株主に帰属する 当期純利益	781	800	+ 18	800

【FY2016 市況前提(下期)】

	当初予想	修正予想
為替レート (円/US\$)	115 ⇒	100
ドバイ原油 (US\$/bbl)	42 ⇒	45
シンガポールケロシン (US\$/bbl)	55 ⇒	58

\*2016年4月28日開示

©ANAHD2016

30

◎続きまして、2016年度 通期業績予想についてご説明します。

◎売上高、営業費用の予想に、上期の実績、並びに下期の見通しを反映しました。

下期における為替、燃油の市況前提を、下段に記載しています。

◎営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益については、今年4月末に発表した当初予想から、変更はありません。

◎31ページをご覧ください。

## 2016年度 通期業績予想

セグメント別 業績予想		FY2015	FY2016 (修正予想)	前年差	FY2016 (当初予想)*
単位: 億円					
売上高	航空事業	15,532	15,080	△ 452	15,600
	航空関連事業	2,319	2,620	+ 300	2,450
	旅行事業	1,673	1,570	△ 103	1,700
	商社事業	1,402	1,400	△ 2	1,550
	報告セグメント計	20,927	20,670	△ 257	21,300
	その他	337	330	△ 7	330
	調整額	△ 3,353	△ 3,600	△ 246	△ 3,530
	合計(連結)	17,911	17,400	△ 511	18,100
営業利益	航空事業	1,397	1,350	△ 47	1,335
	航空関連事業	△ 42	95	+ 137	85
	旅行事業	42	40	△ 2	50
	商社事業	53	50	△ 3	65
	報告セグメント計	1,451	1,535	+ 83	1,535
	その他	16	15	△ 1	15
	調整額	△ 103	△ 100	+ 3	△ 100
	合計(連結)	1,364	1,450	+ 85	1,450

©ANAHD2016

\*2016年4月28日開示 31

◎セグメント別の業績予想です。

◎ご覧の通り、事業別では営業利益を若干変更しています。

32ページに記載している航空事業の詳細と併せてご確認ください。

◎なお、旅客事業と貨物事業における、収入予想の主要な前提値については、

33ページと34ページに記載しています。

◎私からのご説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

## 2016年度 通期業績予想

## 航空事業 収入・費用予想

		単位: 億円			
		FY2015	FY2016 (修正予想)	前年差	FY2016 (当初予想)*
売上高	国内線旅客	6,856	6,820	△ 36	6,870
	国際線旅客	5,156	4,970	△ 186	5,040
	貨物郵便	1,553	1,260	△ 293	1,640
	その他	1,965	2,030	+ 64	2,050
	合計	15,532	15,080	△ 452	15,600
営業費用	燃油費・燃料税	3,062	2,640	△ 422	2,695
	燃油費以外	11,072	11,090	+ 17	11,570
	合計	14,134	13,730	△ 404	14,265
営業利益	営業利益	1,397	1,350	△ 47	1,335

\*2016年4月28日開示

## 2016年度 通期業績予想

## 計画前提 (旅客事業)

(パニラエアを含まず)

数値は前年比表示

\* 実数値・(前年差)表示

\*\* 実数値・(前年比)表示

	国内旅客			国際旅客		
	上期 実績	下期 修正予想	通期 修正予想	上期 実績	下期 修正予想	通期 修正予想
座席キロ	△ 0.3	△ 2.3	△ 1.3	+ 11.9	+ 7.6	+ 9.7
旅客キロ	+ 0.5	+ 1.8	+ 1.1	+ 11.6	+ 9.2	+ 10.4
旅客数	△ 0.1	+ 1.6	+ 0.7	+ 10.3	+ 10.0	+ 10.1
座席利用率(%)*	64.6 (+ 0.5)	68.1 (+ 2.7)	66.3 (+ 1.6)	75.7 (△ 0.2)	73.9 (+ 1.1)	74.8 (+ 0.5)
ユニットレベニュー(円)** (旅客収入/座席キロ)	11.5 (△ 1.4)	11.8 (+ 3.0)	11.6 (+ 0.7)	8.8 (△ 10.8)	7.8 (△ 13.7)	8.3 (△ 12.1)
イールド(円)** (旅客収入/旅客キロ)	17.8 (△ 2.1)	17.3 (△ 1.1)	17.5 (△ 1.6)	11.6 (△ 10.6)	10.5 (△ 15.0)	11.1 (△ 12.7)
単価(円)** (旅客収入/旅客数)	16,146 (△ 1.5)	15,600 (△ 0.9)	15,873 (△ 1.2)	57,854 (△ 9.5)	52,646 (△ 15.6)	55,240 (△ 12.5)

## 2016年度 通期業績予想

## 計画前提（貨物事業）

数値は前年比表示

\* 実数値・(前年差)表示

\*\* 実数値・(前年比)表示

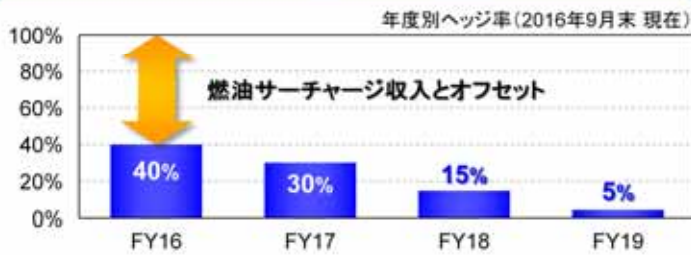
	国内貨物			国際貨物		
	上期 実績	下期 修正予想	通期 修正予想	上期 実績	下期 修正予想	通期 修正予想
有効貨物トンキロ	△ 3.4	△ 4.8	△ 4.0	+ 10.5	+ 6.7	+ 8.5
有償貨物トンキロ	△ 2.0	+ 0.1	△ 0.9	+ 17.5	+ 12.2	+ 14.7
貨物輸送重量	△ 2.7	+ 0.3	△ 1.2	+ 15.4	+ 8.7	+ 12.0
重量利用率(%)*	24.5 (+ 0.3)	28.4 (+ 1.4)	26.4 (+ 0.8)	61.2 (+ 3.6)	62.5 (+ 3.1)	61.8 (+ 3.3)
ユニットレベニュー(円)** (貨物収入/有効貨物トンキロ)	16.4 (+ 0.4)	19.3 (+ 7.1)	17.8 (+ 3.7)	12.8 (△ 35.1)	13.3 (△ 25.3)	13.1 (△ 30.4)
イールド(円)** (貨物収入/有償貨物トンキロ)	66.9 (△ 1.0)	68.1 (+ 1.9)	67.5 (+ 0.5)	20.9 (△ 39.0)	21.3 (△ 29.0)	21.1 (△ 34.1)
単価(円)** (貨物収入/貨物輸送重量)	68 (△ 0.3)	69 (+ 1.7)	68 (+ 0.7)	92 (△ 37.9)	97 (△ 26.7)	94 (△ 32.5)

## 燃油・為替ヘッジの進捗状況

### 【燃油ヘッジ 基本方針】

- ・国内線消費量を対象にヘッジ(3年前から取引開始)
- ・国際線消費量は原則としてヘッジ対象外(燃油サーチャージ収入で対応)

(US\$/bbl)	上期 実績	下期 市況前提
ドバイ原油	43.2	45
シンガポールケロシン	54.4	58

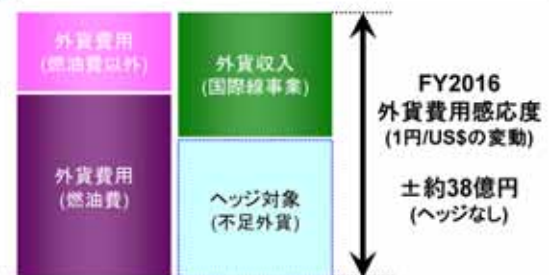
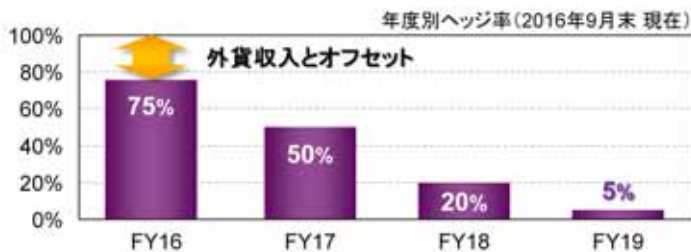


### 【為替ヘッジ 基本方針】

- ・不足する外貨量を対象にヘッジ(3年前から取引開始)

(円/US\$)	上期 実績	下期 市況前提
ドル円レート	105.2	100

※ヘッジ率は外貨費用(燃油費)に対する進捗



## 補足資料

運用航空機数	FY2015 期末	FY2016 第2四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
Boeing 777-300ER	22	22	-	16	6
Boeing 777-300	7	7	-	7	-
Boeing 777-200ER	12	12	-	6	6
Boeing 777-200	16	14	△2	12	2
Boeing 787-9	11	16	+5	16	-
Boeing 787-8	35	36	+1	32	4
Boeing 767-300ER	25	25	-	13	12
Boeing 767-300	13	12	△1	12	-
Boeing 767-300F	4	4	-	-	4
Boeing 767-300BCF	8	8	-	8	-
Airbus A320-200	18	19	+1	10	9
Boeing 737-800	36	36	-	24	12
Boeing 737-700ER	2	0	△2	-	-
Boeing 737-700	7	7	-	7	-
Boeing 737-500	20	18	△2	18	-
Bombardier DHC-8-400 (Q400)	21	21	-	19	2
合計	257	257	-	200	57

パニラエア運用 A320-200 を含む(当第2四半期末 9機、前年度期末 8機)  
グループ外にリースしている機数を除く(当第2四半期末 17機、前年度期末 16機)

## 補足資料

国際旅客 方面別実績(構成比)		FY2016 第2四半期累計 構成比	前年差	FY2016 第2四半期 構成比	前年差
旅客収入	北米	32.0	△0.5	31.6	△1.2
	欧州	19.1	△0.5	19.3	△0.4
	中国	14.6	△2.2	15.2	△1.1
	アジア・オセアニア	29.2	+2.3	28.1	+2.0
	リゾート	5.1	+0.9	5.7	+0.7
座席キロ	北米	33.4	△2.9	33.0	△3.6
	欧州	16.3	△2.2	16.5	△1.3
	中国	12.0	+0.9	12.1	+1.4
	アジア・オセアニア	33.2	+3.5	33.2	+3.5
	リゾート	5.1	+0.6	5.1	+0.1
旅客キロ	北米	34.3	△1.5	34.1	△2.0
	欧州	16.2	△2.4	16.8	△2.1
	中国	10.5	△0.3	11.2	+0.8
	アジア・オセアニア	33.1	+3.6	32.0	+3.2
	リゾート	5.8	+0.7	5.9	+0.1

## 補足資料

国際貨物 方面別実績(構成比)		FY2016 第2四半期累計 構成比	前年差	FY2016 第2四半期 構成比	前年差
貨物収入	北米	25.3	+1.1	27.8	+5.2
	欧州	14.9	+1.3	15.6	+2.0
	中国	30.4	△3.9	26.9	△9.2
	アジア・オセアニア	23.6	+1.7	23.5	+1.7
	その他	5.7	△0.2	6.2	+0.3
有効貨物 トンキロ	北米	36.5	△0.6	36.1	△2.3
	欧州	16.3	△1.8	16.3	△1.0
	中国	16.9	+0.1	17.3	+1.0
	アジア・オセアニア	26.6	+2.6	26.5	+2.4
	その他	3.7	△0.3	3.8	△0.1
有償貨物 トンキロ	北米	37.9	△1.3	37.9	△0.8
	欧州	20.7	△1.8	20.4	△1.9
	中国	13.9	+0.9	14.5	+1.0
	アジア・オセアニア	24.1	+3.0	23.7	+2.4
	その他	3.5	△0.8	3.5	△0.7

## ANAグループが目指すもの

## グループ経営理念

安心と信頼を基礎に  
世界をつなぐ心の翼で  
夢にあふれる未来に貢献します

## グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である  
私たちはお互いの理解と信頼のもと  
確かなしくみで安全を高めていきます  
私たちは一人ひとりの責任ある  
誠実な行動により安全を追求します

## グループ経営ビジョン

ANAグループは、  
お客様満足と価値創造で  
世界のリーディングエアライングループを目指します

### 免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社の主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

ご清聴ありがとうございました。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

[日本語] 株主・投資家情報 → IR資料室 → 決算説明会資料

ANAホールディングス株式会社 財務企画・IR部

Eメール : [ir@anahd.co.jp](mailto:ir@anahd.co.jp)